

長野県安曇野市・豊里開拓地

演習地跡を開墾

長野県中央部の安曇野市穂高有明・豊里（とよさと）区は、JR大糸線穂高駅から西北約6kmにあり、美しい田園風景が広がっている。同区は戦後開拓地で、開拓者によって開墾され、人が住み始めた。

同県には、1945（昭和20）年から64年までに6219戸が入植した。開拓地の多くは標高の高い場所にあり、やせた土壌など劣悪な土地条件だった。

豊里開拓地の前身は、旧・陸軍松本歩兵第50連隊の演習地（約170㍓）で、標高は約600㍓。45年、復員軍人、引揚者、疎開者ら76戸が入植した。農業には未経験者ばかりであり、肥料もなく、開墾と営農は並大抵の苦労ではなかった。当初、大豆の種などを撒いたが、収穫は少なかった。

土地は砂礫土で水の便も悪く、干害を受ける年が多かった。そのため、井戸を掘り開田、水稻植え付けをした。

豊里の交差点近くに開拓記念碑がある。豊里開拓記念碑建設委員会が76（昭和51）年に建立したもので、碑銘は「開拓記念碑」。傍には演習地跡の説明看板と碑誌、反対側には、井戸から高地の水田への配水に使用された送水ポンプがある（写真⑤屋根の下）。

碑誌には「昭和三十四年深井戸開田の気運が高まり豊里中上土地改良区の設立を見て漸く生活安定の基礎が確立した」「ここに三十有余年に渉る同志の彫身の労苦をかえりみるとき無量の感慨きわまりなし 相共に努力した人々や今は亡き同志の功績を偲び本碑を建立する」と記されている。

（碑誌）

昭和二十年大東亜戦争終結の秋痛恨と傷心を秘め食糧増産の緊急要請に応えるべく吾々は長野補導部の主導により各地からこの地に参集した、烈々たる斗志の前に旧陸軍演習地はみるみる開墾されていった然し畑作農業の安定を期待することは容易なことではなかったとりわけ昭和三十年前後の数年は誠に苦難の連続で自衛隊演習場問題も起り多難であったが住民（当時七十六戸）の一致協力によりこれを克服することができた、昭和三十四年深井戸開田の気運が高まり豊里中上土地改良区の設立を見て漸く生活安定の基礎が確立した、昭和四十年以降山麓開発の進展と共に穂高高原温泉郷の実現を見るに及んで俄然脚光を浴びるに至り名実共に豊里の村となったここに三十有余年に渉る同志の彫身の労苦をかへりみるとき無量の感慨きわまりなし相共に努力した人々や今は亡き同志の功績を偲び本碑を建立する

昭和五十一年十一月二十日

豊里開拓記念碑建設委員会

穂高町町長 高山 勇

入植者氏名（七十名 略）

協力者（十二名 略）

